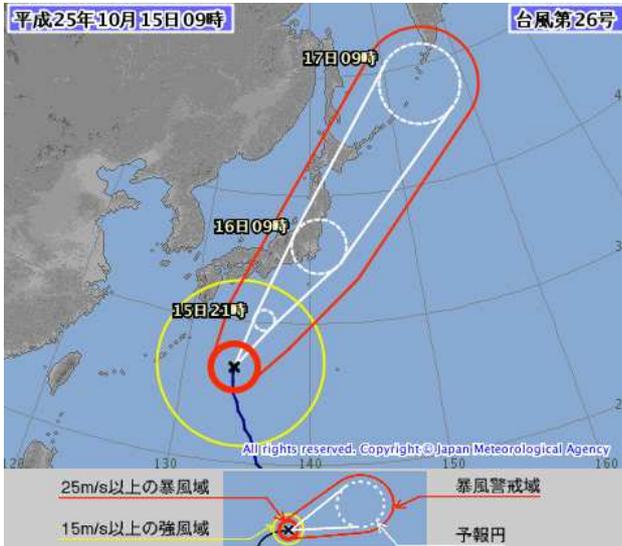


台風26号に対する農作物等の技術対策

福島県農林水産部農業振興課



大型で強い台風第26号は、15日は日本の南を北上し、16日朝には関東地方にかなり接近するおそれがあります。15日から16日にかけて、西日本から北日本では広い範囲で暴風や高波、大雨に嚴重に警戒してください。

中心の気圧は945ヘクトパスカル、中心付近の最大風速は40メートル、最大瞬間風速は55メートルで、中心から半径190キロ以内では風速25メートル以上の暴風となっています。

台風第26号は今後も強い勢力を保ったまま次第に速度を上げて日本の南を北東に進み、暴風域を伴って16日朝には関東地方にかなり接近する見込みです。

(出典：平成25年 台風第26号に関する情報 第17

号 平成25年10月15日10時50分 気象庁予報部発表)

今後の台風の情報に留意し、農作物の管理には十分注意しましょう。

水路等が増水している場合や土砂災害等のおそれがある場合は、危険な場所には近づかないでください。

1 水 稲

(1) 事前対策

- ア 増水に備え、用排水路を点検しゴミ等を取り除いておきましょう。
- イ 排水側の水口を開けて、ほ場内に滞水しないようにしましょう。

(2) 事後対策

- ア 浸水・冠水した場合は、早急に排水を図り少しでも早く穂先や葉先を出すよう努めてください。
- イ 倒伏した場合は速やかに株起こしを実施し、穂発芽しないようにしましょう。なお、株元が損傷している場合には、隣接する株の上に穂をのせる程度としましょう。
- ウ 倒伏ほ場では刈り分けを行うなど、泥の混入が無いよう注意をお願いします。

2 大 豆

(1) 事前対策

- ア 速やかにほ場排水ができるよう明きょ、暗きょ等を点検し、ゴミ等の除去など実施しておきましょう。
- イ 滞水しやすいほ場では、必要に応じて畦畔の切削等を実施し排水に備えましょう。

(2) 事後対策

表面水や明きょの滞水は早急にほ場外に排水しましょう。

3 そば

(1) 事前対策

滞水しやすいほ場では、必要に応じて畦畔の切削等を実施し排水に備えましょう。

(2) 事後対策

ア 地表面に滞水がある場合は、溝切りなどの排水対策を行いましょ。

イ 倒伏したところをコンバインで刈り取る場合は、刈り幅を狭め、刈り取り部を下げて、追い刈りまたは横刈りで刈り取りましょ。

ウ 収穫作業では、泥の混入が無いよう注意してください。

4 野菜・花き

(1) 事前対策

ア 共通

(ア) パイプハウスの被覆資材及び止め具（マイカ線、ビニペット等）を点検し、ビニールの破損があれば補修ましょ。

(イ) パイプハウスやネット栽培等で支柱を使用しているものは筋交いを入れ、補強ましょ。

(ウ) 雨よけのみのパイプハウス等は強風に弱いため、ラセン杭、ハウスバンド等で浮き上がらないようにしっかりと固定ましょ。

(エ) ほ場周囲に防風ネットを設置している場合は、ワイヤー・針金の緩みやネットの破損を点検し補修ましょ。

(オ) 施設では、開口部を完全に閉め風が吹き込まないようにするとともに、周辺の清掃に努め飛来物による損傷を防ぎましょ。

(カ) ほ場周囲の排水溝を点検し、速やかに排水できるようにしておきましょ。水害の恐れがあるところでは強制排水のポンプも準備しておきましょ。

(キ) 収穫可能なものは、できるだけ台風接近前に収穫ましょ。

イ 野菜

(ア) 露地の葉菜類や根菜類では、べたがけ資材（不織布等）を支柱を用いて浮き掛けすることにより被害を軽減することができます。その際は、べたがけ資材が風に飛ばされないようしっかりと止めましょ。

(イ) 露地アスパラガスやピーマンでは、フラワーネットと支柱、またナスでは支柱等を点検し倒伏を防止ましょ。

ウ 花き

露地栽培では、フラワーネットの張りや支柱を点検し、倒伏や曲りを防止ましょ。

(2) 事後対策

ア 共通

(ア) 停滞水は明きよを掘削するなど、速やかな排水に努めましょ。

(イ) ネギやリンドウなど倒伏したものは、茎が曲がるのを防ぐため、できるだけ早く引き起こすとともに、茎葉に泥土が付着している場合は、動力噴霧機などにより水をかけて洗い流し、適切な薬剤散布を行いましょ。

(ウ) 台風通過後は、吹き返しの強風に注意しながら施設等の換気を図りましょ。

イ 野菜

(ア) 排水後、ほ場作業が可能になったら直ちに畦間の中耕を行い、土壌の通気性を良くし根の動きを回復ましょ。

(イ) マルチを行っている畦が冠水した場合、マルチ下の土壌水分が過多となりやすい

- ので、マルチを一時的にはぐなどして畦の乾燥を促しましょう。
- (ウ) 損傷を受けた果実や茎葉は、早急に摘除しましょう。ネット等からはずれたつるや茎葉等は、再度誘引し直しましょう。
 - (エ) 冠水や多湿、茎葉の損傷等により病害にかかりやすくなっていますので、直ちに適切な薬剤散布を行いましょう。また、草勢回復のため、液肥のかん注や葉面散布剤の散布を行いましょう。
 - (オ) 収穫した野菜は、傷みがないか良く確認しながら調製作業を行いましょう。

ウ 花 き

- (ア) キクやリンドウなど露地の花きは、風雨により損傷を受けると病害が発生しやすいので、速やかに適切な薬剤散布をするとともに、草勢回復のために液肥の葉面散布を行いましょう。
- (イ) ほ場が冠水した場合は、速やかに排水を行うとともに、付着した泥を洗い流し、灰色かび病等の予防薬剤散布を行いましょう。また、液肥の葉面散布や酸素供給剤のかん注により、草勢回復を図りましょう。

5 果 樹

(1) 事前対策

- ア 現在、収穫期に入っている果樹では、強風による落果や傷害が懸念されるので、収穫可能な果実は事前に収穫しましょう。
- イ モモせん孔細菌病やナシ黒星病に対する秋季防除は、台風により散布タイミングが遅れないよう注意しましょう。特に、モモせん孔細菌病が発生している地域では、台風の風雨の影響で感染が拡大するおそれがありますので、前回散布した秋季防除剤の残効期間を考慮し、次の秋季防除時期が近づいている場合は、台風前に実施しましょう。
- ウ 立木では、主枝などの大枝が裂けるおそれがあるので、支柱で支え、脱落しないよう枝受け部分を結束します。また、側枝は支柱等で固定すると落果を助長することがあるので、支柱等はずし風になびくようにします。
- エ リンゴのわい性台樹は倒伏しやすいので、支柱への結束状態を確認し、不十分な場合は補強しておきます。また、木支柱の場合は、支柱の根元が腐敗していないかどうか確認します。
- オ 果樹棚（ナシ、ブドウ等）等の施設は、前もって点検し、強風の前にアンカー補強や棚線の締め直し等を行います。また、棚周囲に防風ネットを設置している場合は、風で飛ばされないように補強しましょう。

(2) 事後対策

- ア 滞水している園地では、明きよなどにより速やかな排水に努めましょう。
- イ 落果した果実は速やかに収集し、適正に処理しましょう。
- ウ 葉や果実に損傷がある場合は、病原菌の侵入を防止するため、被害1～2日後に適切に薬剤散布を実施しましょう。なお、被害後に定期散布が近い場合は、この散布に置き換えて実施します。
台風によりモモせん孔細菌病やナシ黒星病の秋季防除のタイミングが遅れた園地では、天候の回復を待って速やかに実施しましょう。
- エ 今後収穫期を迎える果樹では、落葉や葉の損傷が大きい場合、その程度に応じて修正摘果を行います。
- オ 倒伏した樹はできるだけ早く起こし、土を盛り、支柱等で固定します。また、かん水やマルチにより根の乾燥防止に努め、新根の発生を促します。大枝が裂けた場合は、ボルトやカスガイ等で止めるか、縄などでしばり傷口を接着させます。

カ 台風通過後は、フェーン現象により一時的に高温になり、乾燥した風により葉焼け等が発生しやすくなります。このような場合はスピードスプレーや等で散水し、樹体温を下げるるとともに湿度を維持し、被害を軽減するようにします。

6 畜産・飼料作物

(1) 事前対策

ア 強風による畜舎、飼料庫、飼料タンク、堆肥舎等の損壊及び風雨の吹き込みを未然に防止するため、屋根、扉、窓、外壁及び排水溝等の破損や亀裂等の有無を確認し、必ず補修等の応急措置を行いましょ。

イ 開放された飼料の保管場所では、乾草や稲わら等をシートで覆うなどして、雨水がかからないようにしてください。

ウ 堆肥舎への風雨の吹き込みにより、堆肥や汚水が流出することが心配されますので、堆肥をシートで覆うなどして、流出を防止しましょ。

エ あらかじめ停電や断水等の対応を確認し、被災時には自家発電機等による搾乳や生乳冷却等の対応ができるよう対策を行いましょ。

オ 水はけの悪い草地や飼料畑には明きよを掘削するなど、速やかに排水できるようにしましょ。

特に、飼料用トウモロコシでは収穫期のものがありますので、水はけの悪いほ場は必ず明きよ等の排水対策を行ってください。

(2) 事後対策

ア 畜舎等が浸水した場合は速やかに排水し、疾病発生予防のため洗浄と消毒を行った後、施設内の乾燥に努めましょ。

イ 滞水している草地や飼料畑は、明きよなどを点検し速やかに排水しましょ。

ウ 豪雨により草地や飼料畑で土壌浸食が発生した場合は、早めに修復しましょ。

エ 飼料用イネや飼料用トウモロコシが倒伏等の被害を受け、回復が期待できない場合には、早急に収穫調製作業を行いましょ。

調製にあたっては、水分調整の実施や、土砂等が混入しないよう作業速度をおとして収穫作業を行うとともに、乳酸菌製剤等の発酵促進剤を添加して、サイレージの品質向上に努めてください。

発行：福島県農林水産部農業振興課 技術革新支援担当 TEL 024 (521) 7339
(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください)

URL：http://www.cms.pref.fukushima.jp/pcp_portal/PortalServlet?DISPLAY_ID=DIRECT&NEXT_DISPLAY_ID=U000004&CONTENTS_ID=22752#gi_jyutsu_jyuhou

モバイル版 QRコード

モバイル県庁：福島モバイル県庁→お知らせ・各種情報→農業技術情報
(右欄に掲載のQRコードよりご覧ください)

ふくしま新発売：以下のURLより最新の農林水産物モニタリング
情報、イベント情報等をご覧ください。

URL：<http://www.new-fukushima.jp/>

